



News Letter



CONTENTS

- 2-3 Pick up NPO
・特定非営利活動法人ままはーと
・NPO法人ふるどの
- 4-5 Let's SDGs 第3弾
～みんなでつながる・つくる世界～
- 6 ・NPOと企業等のマッチング事業 経過報告
・ふるさと・きずな維持・再生支援事業 成果報告交流会 開催案内
- 7 ・経営者ラボ報告
・報告書の作成進んでいますか？
- 8 ・ほっと一息ブレイクタイム～中通り篇～
・助成金情報

NPO × 若者
= 創る!!

令和3年度NPO強化による地域活性化事業

チャレンジインターンシップ 活動成果報告会・閉講式開催



今年度は「Action to 2030 きみのチカラがふくしまを創る」というスローガンのもと、38名のインターン生が活動に取り組みました。12月5日(日)には「活動成果報告会・閉講式」が福島市市民活動サポートセンターにおいて開催されました。

インターン生の報告に先立ち、「インターン活動とSDGsを考える」というタイトルで学びの場も設けられ、4か月弱にわたる活動の方向性を考える良い機会となりました。

今年度は会場とZoomでの参加で開催しました。それぞれインターン生が作成したパワーポイント画面で①インターン先では、どんなことをしたか?②インターン活動で得たものや学んだこと、気付いたこと③活動を終え、自分が得たものを今後どのように活かしていきたいか?について発表し、その後インターン先のメンターさんからコメントをいただき活動の振り返りを行いました。

閉講式では参加者を代表して2名のインターン生に感想を発表してもらいました。会場参加の鳴原美月さんからは「NPOをあまり知らなかったが、みなさんの発表を聞いて団体の重要性が分かった。」、Zoom参加の小谷津陽色さんからは「今後も団体に関わっていききたいという思いは、みんな同じなんだとわかった。SDGsの目標達成に向けて大きな力になるのではないかと思います。」

という感想が述べられました。

講評では、主催の福島県文化振興課高橋課長からは「例年通りいかないこともあったと思うが、団体に工夫して進めてもらった。学生の貴重な体験になったとともに、地域活動へ関心を抱く大きなきっかけになったと思う。」、協賛社のココ・コーラボトラーズジャパン株式会社CSV推進部コミュニティリレーション課奥堀課長からは「どの活動報告も素晴らしい内容で、エネルギーをもらった。コロナ禍で活動の制限があった中、工夫して熱心に実習や体験をされていた。学生と団体の強いつながりを感じた。地域を思いあって地域を盛り立てていく、参加者同士のコミュニケーションのきっかけになればと思う。」という言葉をいただきました。

活動に参加した一人一人が熱い思いを胸にさらなるステージに向かって福島市の未来へ羽ばたくことを期待しています。



活動レポートはこちらから

URL <https://f-intern.f-saposen.jp/topics/report/>



活動の様子を紹介した動画はこちらから

URL <https://drive.google.com/file/d/1EgGY8ba1lsNXytCAadMGDMTzuqptc8YjO/view?usp=sharing>





特定非営利活動法人 ままはーと

いわき市



<https://mamaheart-iwaki.com/>

多機能型重心児者
デイサービス「どりーむず」



営業時間 10:00～16:00 月曜日～土曜日(祝日も開所)
休所日 毎週日曜日(応相談)、年末年始(12/29～1/3)

障がいの有無に関わらず地域で安心して暮らしていけるように



室内で楽しく
イチゴ狩り!



お花の寄せ植え体験♪

特定非営利活動法人ままはーとは、重症心身障がい児者(以下、重心児)の笑顔と地域をつなぐという理念の元、重い障がいをお持ちの子どもたちの児童発達支援(未就学児)・放課後等デイサービス(小1～高3)・生活介護事業を行う日中活動通所支援事業所「どりーむず」を運営しています。

どりーむずでは現在、全体で約25名の重心児を預かっており、1日に受け入れる定員は5名まで。14名のスタッフが、交代で療育活動や医療的なサポートを行っており、お子さんやお母さんたちの交流・相談の場としても活用されています。さらに、寝たきりのお子さんたちや、自分で思うように体を動かすことが難しいお子さんたちでも、季節を感じたり、様々な日常の生活を体験し楽しめるイベントも定期的で開催しています。

また、毎日のおやつは、「忙しいお母さんに代わって手作りのものを食べさせてあげたい」という気持ちから、スタッフさんたちの手作り!まさしく、ままはーとの味と言えるのではないのでしょうか。

代表者である笠間さん自身も、重心児の息子さんを育て

ている当事者のお一人です。

「10年前、自分が突然重心児の母になり、今まで介護に関わったことがなかったので色々調べたけれど、当時はなかなか情報が見つからず孤独感を感じました。その経験から、同じ思いを抱えたお母さんたちを支え、最初の突破口になりたいと考えたんです。大変じゃなかったという嘘になりますが、息子が生まれなかったらままはーとを作ること、それによって出会えた人たちと会うこともなかった。この子たちの人をつなぐという力は凄いです。みんなと出会えたことが、一番の幸せです。」と、笠間さんは素敵な笑顔を見せてくれました。

今後は医療技術の発展に伴い、重度の障がいを抱えながら生活する子どもやそのご家族への多職種連携による支援が必要不可欠になります。「重心児の保護者が不安を感じないよう、自分たちがこの地域で活動していること、障がいがあってもなくても安心して子どもが育てられることを伝えたい。そして、スタッフが働きやすく、幸せであることを願っています。」と笠間さんは語っています。

NPO法人 ふるどの

古殿町



<http://npo-furudono.net/>

受付の様子



地域の結びつきを大切に!



代表の小玉さん
自らお弁当を配布!



子どもたち、
みんないい笑顔!

核家族化や高齢者の生活課題が浮き彫りとなっている昨今、町全体の活性化を図りたいという思いから、NPO法人ふるどのは2020年に法人を立ち上げました。

発足当初は、高齢者の買い物支援に取り組んでいました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、地域に様々な課題があることに気が付きました。そこで、地域住民が日頃不安に感じていることを相談できる場を提供し、食事を共にすることで住民同士が交流を図れるようになればと、地域食堂の開設に着手しました。

活動を始めた頃は、不定期に町の公民館を利用して無償でお弁当や食品の配布を行っていましたが、2021年10月には、住民のご好意で子ども食堂の場所を提供していただき、定期的開催できるようになりました。口コミが広がり、今では開催すると30分程度で用意したものが全て無くなってしまふほど。始めは、誰でも受け取れるようにしていましたが、子どもたちの分がなくなってしまうため、現在は子ども優先で食品を配布する「子ども食堂事業」として活動して

います。ふくしま子ども食堂ネットワークと連携し、企業などから寄付された食品や、赤い羽根共同募金「赤い羽根 子どもと家族の緊急支援 全国キャンペーン」、NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ2021年第2回「むすびえこども食堂基金」の助成金で弁当配布や食料品を用意するなど、精力的に活動をしています。

「今はコロナ禍ということもあり、配布のみを行っていますが、収束した際には年齢を問わず地域の方々が無難に立ち寄り、みんなで食事ができる地域食堂にしていきたいと考えています。大変なことも多いけれど、子どもたちの笑顔を見られることが何より嬉しいです。」と代表の小玉さんは仰います。

NPO法人ふるどのでは、一緒に活動してくれる仲間を募集しています。ご興味のある方は、是非ご連絡ください。

Let's SDGs!

～みんなでつながる・つくる世界～



長引くコロナ禍により、生活困窮や孤独・孤立が大きな社会問題となっております。日本政府も格差の解消や孤独・孤立対策を重点課題としていますが、課題解決には現場できめ細かく支援活動を行うNPOの存在は欠かせません。今回はこうした課題に対応するNPOと、その取組をご紹介します。

生活困窮や孤立を防ぐための取組

NPO法人FUKUSHIMAいのちの水

10月の「サンタデー」での物資提供の様子(HPより)



新型コロナウイルス感染拡大の影響で、生活困窮や住民の孤立が社会問題となっています。感染拡大防止のための行動抑制は飲食店や観光業者などの経営の悪化につながり、また住民同士の交流が制限され、生活困窮者や孤立する人たちが増加しています。

こうした問題に対応すべく、郡山市に拠点を置くNPO法人FUKUSHIMAいのちの水は企業などから寄贈された食料品や飲料水などの物資を郡山市内に設けた倉庫「サンタハウス」に備蓄し、毎月5日間の「サンタデー(配給日)」に生活弱者(貧困者、傷病者、被保護者、在留外国人など)に配布しています。

更に昨年より、物資の提供を受けた利用者がその一部をサンタハウスに来られない近所の子どもや高齢者などに分ける「おすそわけ」の事業も開始しました。「おすそわけ」参加者が近隣の困窮する住民に物資を配ることで、コロナ禍で制約を受けていた「交流」が生まれ、住民の孤立防止にもつながっています。また「おすそわけ」参加者からの報告がブログでも一部紹介されていますが、充実感にあふれる感想が書かれており、参加者の「やりがい」にもつながっているのではないかと思います。

支援する側、支援を受ける側がお互いに充実感と感謝の気持ちを持ち、暮らしやすいコミュニティを形成することで、生活困窮や孤立を防ぎ、安全・安心なまちづくりを目指すFUKUSHIMAいのちの水の活躍に、今後も注目していきたいと思ひます。

子ども食堂の普及を目指したネットワークづくり 福島市子ども食堂NET

福島市子ども食堂NETが発行している「福島市子ども食堂MAP」



貧困家庭や親の仕事の都合で食事を一人でしなければならない子どもなどに温かい食事と団らんを提供するために、子ども食堂は2010年頃から全国各地で立ち上がり、現在では「地域ぐるみでの子育て」や「子どもを含めた地域コミュニティの形成の場」などに目的を広げています。一方で子ども食堂の設立や運営には様々な課題が伴い、設立を断念したり、活動の維持が困難になるなどの事例も散見されます。

こうした中、福島市ではフリースクールや子どもの学習支援などを行うNPO法人ビーンズふくしまが、市内や近隣の子ども食堂の「横のつながり」を進め、2020年6月からは福島市からの委託により「福島市子ども食堂NET」を運営しています。ネットワーク化は、設立・運営に関するノウハウの共有や発信力の向上などを図ることが主な目的とされてきましたが、それに加えて「周囲からの寄付など運営支援を受けやすくなる」「ネットワーク参加団体が協力し合うことで、実施場所や活動内容など、子どもや地域住民のニーズに沿った多様な支援を提供できる」といったメリットもあるようです。

福島市内の子ども食堂は「福島市子ども食堂NET」が発足された2020年6月時点で11団体でしたが、この取組の効果などもあり、2021年度末には30団体前後まで増加する見通しです。

地域の子どもや住民の孤立を未然に防ぎ、悩みに寄り添うために、今後も「福島市子ども食堂NET」の取組や地域住民の参加に期待したいと思います。

ひとり親家庭や学生を支援する取組

NPO法人チームふくしま

新型コロナウイルスの感染拡大によって経済的困窮者は増加の一途をたどり、また同時に人流の抑制が困窮者と支援者とのつながりにも影響を与えています。地域課題に取り組むNPOの中にも、活動を休止したり活動規模を縮小するような団体も少なくありません。

こうした中、NPO法人チームふくしまが、今年2月から5月末までの実証実験として、困窮者に非接触で食料や日用品を提供する「コミュニティフリッジひまわり」を開始しました。この取組は、福島市内のアパートの一室を事前登録者のみが利用できるようにセキュリティを万全にし、スタッフとの接触が不要という仕組みで行われております。なお利用登録は、ひとり親世帯、奨学金を受けている学生、児童養護施設の卒業生が対象となっています。

まだ開始されたばかりの取組ですが、多くの方が支援を希望される一方、提供する食料等がまだまだ足りないなど、課題が浮き彫りになりつつあります。こうした課題に対して、管理人の山田さんは「私たちは、このよ

うな取組を立ち上げる担い手が数多く生まれることを願っています。この実証実験で把握した様々な課題やノウハウを共有し取組を広げていくことによって、市民同士が助け合える地域『お互いさまの街ふくしま』を目指したいと思ひます。」と語っていました。

東日本大震災で大きな被害を受け、今でもその影響が残る福島で実施されているこの取組が、県内外に伝わっていくことで、復興に関わっていただいた方への「恩返し」や地域課題に取り組んでいる方々への「恩送り」となっていくことに期待したいと思います。



NPOと企業等のマッチング事業 経過報告

昨年11月に県内4会場にて開催した「NPOと企業のマッチング会」を経て、参加団体と企業の連携・協働の取組が進んでいます。今回は、連携の取組を2件ご紹介いたします。



01 一般社団法人fukucier(ふくしえる)

株式会社いちいによる「介護相談会」

高齢者の福祉・介護に携わるfukucierが、福島市で食品スーパーを展開するいちいの「街なか店」のスペースを活用し、昨年12月14日から延べ4日間「介護のお悩み相談会」を開催しました。

街なか店に設けたブースへ訪れた買い物客からの相談にスタッフが丁寧に受け答えをし、内容によっては日頃から連携している地域包括支援センターへ仲介をしていました。

02 特定非営利活動法人Lotus(ロータス)

株式会社布分(ぬのぶん)による、地元密着商品の共同開発

会津若松市に拠点を置き、地域コミュニティの活性化や子どもの教育に取り組むLotus、会津塗の老舗企業・布分が商品を共同開発し、会津若松市伝統の「十日市」で販売しました。商品はLotusが従来から地元ひのき材を使って制作している民芸品に会津塗を施して仕上げました。

今後は、地域の子どもたちを交えた会津塗の絵付け体験を開催予定です。



ふるさと・きずな維持・再生支援事業 成果報告交流会を開催します

「ふるさと・きずな維持・再生支援事業」は、NPO法人等が行う東日本大震災後の復興支援や風評払拭等の取組を支援しています。

コロナ禍でも本県の復興に取り組んだ19団体の活動成果をぜひお聞きください。

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 成果報告交流会

日時 令和4年3月17日(木) 13:00~15:00(~15:30 交流会)

主催 福島県

開催方法 オンライン

事務局 ふくしま地域活動団体サポートセンター
TEL:024-521-8206(担当:小野田)

参加 無料 どなたでも参加できます。事前にお申し込みください。

成果を発表する予定の19団体

- いわき語り部の会
- 特定非営利活動法人ふくしま再生の会
- 特定非営利活動法人がんばろう福島、農業者等の会
- 特定非営利活動法人富岡町3・11を語る会
- 特定非営利活動法人なごみ
- 特定非営利活動法人コースター
- 一般財団法人飯館までい文化事業団
- NPO法人ふくしま30年プロジェクト
- 農業高校経営マーケティングプログラム協議会
- 特定非営利活動法人野馬土
- 一般社団法人葛力創造舎
- 特定非営利活動法人医療ネットワーク支援センター
- 一般財団法人ワンアース
- 一般社団法人Bridge for Fukushima
- NPO法人中之作プロジェクト
- 学校法人山口学園ECC国際外語専門学校
- 一般社団法人双葉郡未来会議
- 特定非営利活動法人南相馬サイエンスラボ
- 特定非営利活動法人相馬はらがま朝市クラブ



詳細・お申込はこちらから ▶ <https://f-saposen.jp/r3kizunahoukokukai/>

「経営者ラボ」から 県内NPOネットワークの未来を描く



2021年秋、新たな学びの形「経営ラボ」をスタートさせました。「経営ラボ」の特徴は福島県内のNPO団体経営者（理事長や理事・事務局長・事業所所長等）を対象とし、少数精鋭でゼミ生自身が経営者としての自分や所属団体を見つめ、語り、仲間と共に分析をします。それをもとに「何を学びたいか」を決め、「学びのスケジュール」をつくりました。

ゼミ生には特性があり、それぞれ強みや弱みが違います。そのため、時には講師のみならず、仲間のゼミ生や事務局からの指摘を受けながら切磋琢磨し、自らが課題解決の道に気付き、切り開いていく機会となりました。

今年度は、「組織基盤強化」や「事業事例（課題解決に近い事例をもつ県内外の活動団体の話を聞く）」をオンラインと対面で学び、ゼミ生同士のセッションを繰り返す、というスタイルでしたが、ゼミ生が関わるその後の活動にも良い影響が出てきています。また、『「自身の経営スタイル」や「組織の人材育成のスタイル」が変わって余裕が生まれました!』との声も聞くことができました。

経営者は、なかなか悩みを語れず自身で抱えてしまうことも少なくありません。また、課題を見つめる作業は苦しい時間でもあります。しかし、仲間と経営というテーマで課題を見つめる時間は濃密で今後のネットワークにもつながっていくと強い手ごたえを感じ、未来のひろがりにも希望をもっています。

報告書の作成 進んでいますか？

NPO法人は毎事業年度終了後、3カ月以内に報告書の提出が義務付けられています。

見やすく、かつわかりやすい報告書は、団体の信頼性を得るためにも必要不可欠なものです。

ポイントをしっかりと押さえ、正しく作成しましょう！

提出が義務付けられている書類は7っ！

- 01 事業報告書等提出書
- 02 事業報告書
- 03 財産目録
- 04 貸借対照表
- 05 活動計算書
- 06 前事業年度の役員名簿
- 07 社員のうち10人以上の名簿

※福島県においては定められた「事業報告書」の様式はありません。

正しく作って
期限内に提出しましょう！



さぼしー

事業報告書の作成でお困りの事がありましたらサポセンにご相談ください。

記載例は福島県ホームページ「NPO法人の管理・運営に関すること【事業報告書等の提出】」からご確認いただけます。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11055a/npo28.html>





コーヒータイム

運営：NPO法人コーヒータイム

二本松市市民交流センターの1階にあるカフェ「コーヒータイム」。厳選した豆を仕入れサイフォンで淹れたコーヒーはとても香りが高く味わい深いとあって、この至福の一杯を求めて足を運ぶファンも多くいらっしゃいます。店内には様々な柄の大堀相馬焼のカップがあり、好きなカップを選べるのも人気の一つ。他にもジュースやソフトクリームをはじめ、コーヒーのお供にラスクやショートケーキなどをセット(440円～)で注文するのもおすすめです。



ランチメニュー

- トーストセット 500円
- エブピラフセット 600円
- パスタセット 600円
- コーヒーセット 400円～(ラスク付き) ※垂久里コーヒーはプラス100円
- ソフトクリーム 250円～

住所／二本松市本町二丁目3番地の1(二本松市市民交流センター1F)
TEL / 0243-24-8081

【営業時間】 10:00～15:00 【駐車場】 有り
【定休日】 毎週日・月曜日、祝祭日



ギャラリー喫茶ポプラ

運営：NPO法人ポプラ福祉会



サイフォンで淹れた本格コーヒーが味わえるお店「ギャラリー喫茶ポプラ」。店内に並んだ絵画や写真、ハンドメイド作品などを眺めながら、くつろぎのひとときをお過ごしください。(作品は購入可) ランチ時には人気のオムライスをはじめ、ピラフ、スパゲティ、カレーなどがリーズナブルなお値段でご満足いただけます。(プラス200円でコーヒー or 紅茶付き) 随時、ギャラリーでは無料で個展の出展も受付中ですのでお気軽にお問合せください。

ランチメニュー

- チキンピラフ(スープ・サラダ付) 500円
- ミートソーススパゲティ(スープ・サラダ付) 550円
- カレーライス(スープ・福神漬け付) 500円
- オムライス(スープ・サラダ付) 600円 etc.

住所／郡山市開成6丁目296-1
TEL / 024-934-2880

【営業時間】 10:00～17:00
【定休日】 土曜日不定休、日曜日、祝日は休み
【駐車場】 有り



助成金情報

チャレンジしてみよう!

NPO関連の助成金情報については当センターのウェブサイトをご覧ください。
<https://f-saposen.jp/category/subsidy/>



◇保健・医療・福祉

第34回 NHK厚生文化事業団 地域福祉を支援する「わかば基金」【支援元／社会福祉法人 NHK厚生文化事業団】

- 助成対象／日本国内の一定地域に活動拠点を設け活発な福祉活動を進めているボランティアグループやNPO
- 申込期間／2022年2月1日(火)～3月30日(水)※必着、郵送受付のみ ●上限金額／部門により異なる
- 参考URL／<https://www.npwo.or.jp/info/21416>

◇環境

2022年度タカラ・ハーモニストファンド助成事業【支援元／宝ホールディングス株式会社】

- 助成対象／自然環境を守り、育てる活動または研究を実践する個人および団体の、日本の森林や水辺の自然環境を守る活動や、そこに生息する生物を保護するための研究に対して助成
- 申込締切／2022年3月末日※必着 ●上限金額／総額500万円前後、助成件数10件程度
- 参考URL／<https://www.takara.co.jp/environment/fund/>

ふくしま地域活動団体サポートセンター

運営委託：福島県企画調整部 文化スポーツ局 文化振興課
運営受託：認定特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8043 福島県福島市中町8番2号 福島県自治会館7階
TEL.024-521-7333 FAX.024-523-2741
E-mail saposen@f-npo.jp URL <https://f-saposen.jp/>

- ◆県内の認証 NPO 法人団体 / 935 団体
- ◆認定 NPO 法人団体 / 21 団体 ◆特例認定 NPO 法人団体 / 1 団体 2022年1月31日現在

編集後記

気が付けば、地域サポセンの仲間になって2年、早いものです。【内山】きずな事業の成果報告交流会、ぜひご参加ください。【小野田】福寿草、スイセン、チュウリップ、桜、春待ちぬ。【齋藤(美)】酷暑厳冬の1年乗り越えました。桜が待ち遠しい。【穴戸】4月に向けて準備万端整えたい今日この頃です。【村松】コロナと同じぐらいスギ花粉に悩まされています。【中山】肩が張る、腰が張る、湿布を貼る、やっぱり春がいい!【齋藤(宏)】ウォーキングに励みます!目指せ1日10,000歩!【本田】外を歩くと春の予定を思わず桜に話したくなります。【武田】